防災専門図書館

災害の記録を集め・残すことで，命を守る情報を伝えつづける

矢野 陽子

はじめに

「災害は忘れたころにやってくる」。災害の話題になるとよく聞かれるフレーズだと思います。それでは，なぜ忘れてしまうのでしょうか？　人には忘れる力があり，忘れることでさまざまな悲しみや苦しみから心を守る機能があるからだと思います。

それでも「命を守る」ためには，忘れてはならないこともあります。それが災害に対する「備え」の心です。

未曽有の被害をもたらした東日本大震災から10年という月日が流れました。いまでも覚えているのが，大震災から１年後に当館を訪ねて来られた利用者さんが，資料を見ながら思わず「懐かしい」と言われたことです。その人は災害について関心があり当館に足を運んでくださったのですが，被災地から距離があるとは，こういうことなのだと実感しました。

このエピソードは，被災の状況を過去の記憶として決して風化させないようにし，命を守る情報を伝え続けていくことの必要性を痛感させました。東日本大震災から10年という節目の年に，あらためて防災専門図書館から，災害の記録を伝え続けることの大切さをお伝えしたいと思います。

やの ようこ
公益社団法人全国市有物件災害共済会
防災専門図書館，司書・学芸員・博士（史学）
主な著作：
・「専門図書館でのインターンシップ：人材育成の一手段として」『図書館雑誌』110巻５号，2016年.
・「れふぁれんす三題噺(その262)防災専門図書館の巻 防災・災害情報の水先案内人として」『図書館雑誌』113巻3号，2019年.

防災と災害だけで蔵書約16万冊の専門図書館

防災専門図書館は，「防災，災害等に関する資料の収集とその活用・発信を通じて，住民のセーフティネットとして貢献する」ため，公益社団法人全国市有物件災害共済会が運営する専門図書館で，1956（昭和31）年７月に開設されました。共済会の常務理事が館長を兼務し，現場は３人の職員が利用者への応対に当たっています。当館は，地下鉄永田町駅から徒歩数分の日本都市センター会館の８階にあり，上層階はシティホテルの客室，下層階が会議室になっているので，宿泊や会議の前後にふらりと立ち寄られる方もいます。６年ほど前に，ビルの入り口に館名を掲示したり，エントランスの各所に図書館の案内を掲示したりするようになって，利用者

の方が増えています。

館名で分かるようにコンセプトは「防災」と「災害」です。災害については「人に災いを及ぼすもの」と広義でとらえているため，自然災害はもとより，交通事故や公害，労働災害，戦災などの人為災害についても広く資料を収集しています。当館では，公共図書館等で用いられる日本十進分類法ではなく，独自の分類を用いて整理しています。

表１は当館独自の大分類で，この下に700以上の細分類があります。当館ホームページで公開していますので，細分類はそちらをご覧ください。

蔵書は16万冊です。閲覧室には雑誌のほかに，約500冊の図書を出しているだけで，ほとんどの資料は書庫にあります。館内PCで蔵書検索できますが，来館の際にはスタッフに気軽に相談してください。漠然とした内容でも構いません。相談の内容に沿う資料を提供していきます。「専門図書館」というと敷居が高そうですが，利用資格はありませんので，公共図書館のように気軽に来館してもらえればと思います。また，蔵書検索は当館ホームページからできますし，電話やメールによる問合せ対応サービスも行っています。

このほかにも，来館された方には，一つでも「命を守る」ための防災・災害の知恵を持ち帰ってもらえればと思い，閲覧室内やエレベーターホールに，防災関連機関から寄贈いただいた持ち帰り用資料を設置しています。

なお，現在は新型コロナウイルス感染拡大の予防のため，閲覧室の座席数を減らしたり，利用者の方が手にされた本は１日事務室で保管してから書架に戻したりする等の対応をしています。当館では，感染症も災害の一つとして分類しているので，新型コロナ関連の蔵書も増えており，図書は150冊以上，雑誌も400冊を超える記事があります。現在はコロナ禍のため，その多くを閲覧室に出していますので，自由に閲覧することが可能です。

表１　防災専門図書館分類表（大分類）

000	災害一般（気象及び災害史を含む地方史）
100	火災
200	風水害・雪害
300	地震・噴火・津波
400	交通災害
500	農業災害
600	鉱・工業災害
700	公害（環境・放射能汚染を含む）
800	戦災
900	その他一般

災害を伝えて教訓を活かす
－企画展－

当館では防災意識の向上のために所蔵資料を利用して，年に１，２回企画展を開催しています（表２）。企画展を開催する意図は，過去の災害を知っていただいたうえで，展示を見てくれた方一人ひとりが「もし，今自分がその災害にあったらどのようにすべきか」と考えるきっかけをもっていただくことです。どの企画展でも，その両方の視点をもって展示構成しています。近年では，耐震化や堤防などのハード面や，防災情報などのソフト面が強化されてきていますが，被害が発生しないわけではありません。だからこそ，過去の災害を知ることで，その地域では同じような災害が起きる可能性のあることを知り，それに対して命を守る術を知ってもらえればと考えています。

過去の企画展で好評だった展示物は，閲覧室に常設のスペースを設けて展示しています。例えば100円均一ショップで準備できる防災グッズは大好評で，グッズリストを持ち帰られる方が多数いらっしゃいます(写真１)。

また，2017年開催の企画展「首都圏水没!?カスリーン台風から70年～」の際には，東

表２　企画展開催一覧

No.	開催期間	企画展	関連災害	災害発生日
1	2014.6.16～30	1964年新潟地震	新潟地震	1964.6.16
2	2015.1.14～2.27	阪神・淡路大震災から20年 ――都市で起こりうる災害を考える	阪神・淡路大震災	1995.1.17
3	2016.3.1～5.31	東日本大震災から５年 ――資料からみた復興への途上	東日本大震災	2011.3.11
4	2016.8.15～10.31	平成28年・明治22年熊本地震 ――「ゼロの阿蘇」写真展＆防災専門図書館企画展	明治22年／ 平成28年熊本地震	1889.7.28／ 2016.4.14, 16
5	2017.4.10～5.31	熊本地震の現在（いま）	平成28年熊本地震	2016.4.14, 16
6	2017.9.1～12.28	首都圏水没!? ――カスリーン台風から70年	カスリーン台風	1947.9
7	2018.6.20～12.28	震度７の連鎖：首都直下地震を考える ――福井地震から70年	福井地震	1948.6.28
8	2019.5.7～8.9	平成の災害史（朝日新聞社報道写真特別展示を含む）		
9	2019.9.1 ～ 2020.3.31	スーパー台風襲来!?～高潮災害を考える 伊勢湾台風から60年～	伊勢湾台風	1959.9.26
10	2021.3.8～ 2021.4.14～	東日本大震災から10年 熊本地震から５年	東日本大震災 熊本地震	2011.3.11 2016.4.14・16

写真１　100円ショップで揃う防災グッズ

京23区の洪水ハザードマップ（荒川版）を，縮尺を揃えて繋ぎ合わせ，展示しました。荒川下流河川事務所等から寄贈いただいた高低差がわかる３D地図との組み合わせで，よりリアルに浸水域の危険度を感じられると好評なため，常設展示しています（写真２）。

また，西日本豪雨や北海道胆振東部地震，東日本台風，房総半島台風，令和2年7月豪雨等では，緊急展示を実施し，気象庁や国土地理院などの情報をできるだけ速やかに利用者へ伝える工夫もしています。

写真２　各区の荒川ハザードマップを繋げた展示
（そばにハザードマップと３D地図を展示）

今年の企画展は，10年の節目を迎えた東日本大震災と５年目となる熊本地震に関連した展示を行っています。東日本大震災は，「伝え続ける」をテーマにしました。東北各地の復興の状況をエレベーターホールや閲覧

室に展示し（写真３），閲覧室では震災伝承施設のパンフレットを収集して展示しました（写真４）。

また，東日本大震災・福島第一原子力発電所事故関連の蔵書約4,000冊のうち半数を閲覧しやすいように事務室書架に出しています。熊本地震の展示物は，熊本市のご厚意でパネルデータや資料を寄贈いただき，関連蔵書とともに展示しています（写真５）。同じ建物内に熊本市の東京事務所がある関係で，５年前からいろいろ資料提供に協力いただいています。当館の専門性を理解してくださったさまざまな機関からの資料提供等のご協力には大変感謝しています。

写真３　東北各地の復興状況

写真４　震災伝承施設のパンフレット

写真５　熊本地震に関する展示

防災に親しみを感じながら学ぶオリジナルコンテンツ「防災いろはかるた」

当館では，防災を身近に感じてもらうことを目的に，オリジナルコンテンツ「防災いろはかるた」を作成しました。誰でも知っていることわざを，防災の内容にもじって作ったのですが，「面白い！」「使える！」と好評を博しています。様々な防災活動で自由に活用してもらえるようホームページで公開しています（ただし商用利用は不可）。元のことわざを知っている大人にとっては，防災の知恵を覚えやすく，また子どもには，ことわざを勉強するよい機会にもなります。元のことわざとともにいくつか紹介しましょう。

・備えあればうれしいな（備えあれば憂いなし）
災害への備えは命を守るための必須条件。災害食もローリングストックで備えましょう。

・逃げるが価値　（負けるが勝ち）
11月５日は津波防災の日。高い所へ避難を！

・目の上のたんす　（目の上のたんこぶ）
地震対策のため，家具の固定はしっかりとしましょう。

・のど元過ぎても熱さ忘れず　（のど元過ぎれば熱さを忘れる）
災害の記憶を忘れず伝え続けることが，次の防災へ繋がります。

写真６　来館者に好評の「防災いろはかるた」のしおりバージョン

・寝た鯰を起こす　（寝た子を起こす）
俗説では地震を起こすといわれるナマズ。起きずに眠ったままでいて欲しい。

防災のイベントで使えるように，小学校３年生以上を対象としたクイズバージョンも作成しました。また，当館は図書館ですので，来館者用のお土産として，しおりバージョンも作成。こちらも大好評です（写真６）。

おわりに

「災害は忘れてなくてもやってくる」。本稿の最初にあげた「天災は忘れたころにやってくる」をもじった「防災いろはかるた」の一枚です。日本は，毎年台風がきますし，地震も頻発するなど，まさに世界有数の災害大国と言えます。交通事故や環境問題も含めれば，忘れるひまがないほど災害に遭っていることになります。だからこそ，過去の災害を学び，教訓を得て，自分で命を守るための防災について考えることが大切です。

幸いなことに最近の小学校～高校では複数の教科に防災教育が織り込まれていますので，未来を担う子どもたちは防災についてしっかり学んでいると思います。そのとき，大切なのは「なぜ，その行動をするのか」を考え，「自分だったらどうするか」を想像することだと思います。子どもだけでなく，大人もそうです。

山梨大学の秦康範先生がYouTubeで公開された，小学生の抜き打ち避難訓練の映像があります[注)]。訓練では，安全な校庭で遊ぶ児童たちに緊急地震速報のアラーム音を流すと，大多数の児童は大急ぎで校舎へ入っていきました。この映像を初めて見たとき「なぜ危ない校舎にわざわざ戻るんだ？」と愕然としました。そして気づきました。「机の下に入りに行っているのか……」と。「地震発生＝机の下へ」の図式が，「なぜ机の下に入る必要があるのか」を意識しないで，頭にインプットされているのでしょう。映像では何人かの子どもたちは運動場でとどまっています。彼らは，机の下に入る意味を理解していたのだと思います。人に伝えることの難しさを感じつつも，「考えて命を守る」ことができるように，さまざまな情報を伝え続けていきたいと思います。

２年後の2023年は，関東大震災から100年に当たるため，規模の大きい企画展を今から準備しています。関東圏の地震の企画展は初めてですが，被災当時の様子と，首都直下地震が起きた場合の備えを合わせて展示する予定です。

災害は一過性のものではありません。繰り返し起こることを前提にして，被害の記憶が風化しないよう，これからも資料を収集し残すことで，過去の教訓を学べるようにし，命を守る新たな情報を伝えていきたいと思います。

【防災専門図書館】

開館：平日９時～17時（土日祝は休館）
住所：東京都千代田区平河町２－４－１
　　日本都市センター会館８階
メール：lib.bousai@city-net.or.jp
電話：03–5216–8716
紹介動画：「行ってみよう！日本唯一防災専門図書館」
https://www.youtube.com/watch?v=las7fUecuTc

注
秦康範「抜き打ち避難訓練（無予告）」
https://www.youtube.com/watch?v=VV4T1vLDqy8
（参照2021-5-7）